

# 一般社団法人日本地質学会2012年度総会記事

## 2012年度総会議事録

以下のとおり、2012定時社員総会を開催した。

日時 2012年5月19日(土) 14:00~16:05  
会場 北とびあ 第2研修室(東京都北区王子1-1)

総会開始にあたり、議長・副議長、書記として本日出席代議員から以下の方々を選出し、議長及び副議長を議事録署名人とした。  
議長：緒方信一；副議長：荒井晃作；  
書記：橋本善孝・柴田伊廣

代議員(=社員)総数 125名  
議決権総数 125個  
出席者数(委任状、議決権行使者含む) 89名 この議決権総数 89個  
(第3号議案より出席者変更)  
出席者数(委任状、議決権行使者含む) 91名 この議決権総数 91個  
\*特定委任者の出席により、委任状も有効とした。

出席役員 理事(31名) 代表理事(=会長)：宮下純夫、理事：久田健一郎(副会長) 渡部芳夫(副会長) 天野一男 安藤寿男 石渡 明 伊藤谷生 井龍康文 上砂正一 永広昌之 北原哲郎 紺谷吉弘 斎藤 眞 坂口有人 佐々木和彦 柴 正博 高木秀雄 高橋正樹 竹内誠 田村嘉之 内藤一樹 西 弘嗣 榎井 久 平田大二 福富幹男 藤林紀枝 藤本光一郎 星 博幸 保柳康一 向山 栄 山口耕生 脇田浩二

監事：青野道夫 山本正司 以上  
理事32名、監事2名  
総会定足数63名をこえる出席者があるので成立している旨議長が宣言し、議事に入った。

### 1号議案 2011年度理事会報告

藤本常務理事から資料にもつき2011年度の理事会報告があり、中でも重要と思われることについては説明が付された。

また、2011年度内および総会開催の本日まで逝去された会員12名(うち名誉会員2名)に対し、黙祷を捧げた。

本議案についての質疑応答は以下のようであった。

会員の減少傾向についての分析・検討の必要性、地質学の必要性を社会に広める努力が足りないのではないかなどの意見がでた。これに対し宮下会長より、2011年の3.11に対する学会の対応や、科学技術・学術審議会の

測地学文科会から「地震および火山噴火予知のための観測研究計画の見直し」に対する意見要請については、過去の地質学的な成果、周期性などが現実の防災対策に生かされなかったこと、地質学的重要性、地質学・地形学等の広範な分野の研究が国の防災計画に反映されるような制度を望むことなどをコメントしたことが説明された。また、地質学の地位向上、一般への普及活動としては広報誌“ジオルジュ”の発行・“ネット地学部チー”とも“の開設など最大限の努力をしていることが説明された。その他1、2の質疑があったが、賛成多数で本議案は承認された。

### 2号議案 2011年度事業・決算報告

会計担当の向山執行理事から報告と説明があった。会費収入は予算どおり、会員の減少は予測したよりもやや遅れているが、団塊世代の定年の延長等が間もなく終わりになるのでいずれ会員も会費収入も予測どおり減少すること、2011年度において初めて法人として受託事業収入があったこと、法人税の対応などいくつかの要点が説明された。

続いて、山本監事より、2011年度の会計については、適切に処理されていることを確認した旨の会計監査報告があった。

本議案についてはとくに質疑応答はなく、賛成多数で本議案は承認された。

### 3号議案 定款改正

藤本常務理事より、2点の定款改正の趣旨説明ならびに関連する諸規則の変更点が報告として説明された。

#### 1. 定款第33条第2項の改正。

改正理由>総会で会長以下の役員選任をすることに、総会と理事会の開催について、法的手続きの矛盾を解消する。

#### 第5章 役員等

(選任等)

第33条 理事および監事は、総会の決議により別途定める選挙規則に基づき、代議員の選挙により選任する。

2 理事会は、理事会規則により会長1名、副会長2名、常務理事1名、副常務理事1名および執行理事を選任し、代議員に報告する。(改正前：総会はこれを決議する。)

#### 2. 定款第54条に第2項(1)~(3)号を追加改正。

改正理由>一般社団法人の非営利型法人徹底の明確化(2項(1))、ならびに今後の公益法人化に必要な財産の管理運用上の禁止事項(2項(2)、(3))を付け加える。

第7章 財産および会計

(財産の管理・運用)

第54条 この学会の財産の管理・運用は会長が行うものとし、その方法は理事会の決議により別に定める財産管理運用規則によるものとする。

#### 2 以下の各号を財産の管理・運用上の禁止事項として定める。

(1) 剰余金を分配すること。

(2) 会員、役員もしくは使用人、基金の拠出者ならびにこれらの親族に対し、特別の利益を与えること。

(3) 株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人もしくは団体の利益を図る活動を行うものとして政令で定める者に対し、寄附その他の特別の利益を与える行為を行うこと。ただし、公益法人に対し、当該公益法人が行う公益目的事業のために寄附その他の特別の利益を与える行為を行う場合は、この限りでない。

本議案については以下の質疑応答があった後、賛成多数で承認された。

会長以下の選出を総会で行わないということは、法人化によるトップダウンでの選任となるのでは、との意見があった。それに対し藤本常務理事から、代議員選挙の際の会長、副会長への立候補意思表示者への、会員による意向投票を尊重することを、理事会規則に追加、明記することで対応した旨の答があった。

### 4号議案 役員辞任

藤本常務理事より、青野監事から2011年9月付で任期を1年残して2011年度末に辞任する旨の辞任届が提出されたとの報告があった。監事の任期は定款で4年と定められ、定数2名を同時に改選することが選挙規則第5条で定められている。法人化以前からの選出時期を引きずり、現在2名の監事の任期がずれている。任期を揃え、改選時期を統一して規則に適ったものとするために、青野監事には形式的に2011年度末で辞任の手続きをしていただいと説明があった。

陪席の一般会員より、辞任に際しては、残り任期の扱いを決めておく必要があるのではとの質問があった。これに対し、渡部副会長より、通常の辞任により補欠が選出される場合は補欠者が残任期間を引き継ぐが、今回の辞任は規則に合わせる経過措置であり、任期を残さないことを前提として新たに4年任期の監事2名を同時に選出する選挙としたと答えた。

以上の質疑応答があった後、本議案は賛成多数で承認された。

### 5号議案 代議員及び理事・監事選挙報告

兼子選挙管理委員長から、会員による代議員選挙、代議員による理事および監事選挙の結果が報告され、選出された代議員は133名、理事50名、監事2名。

とくに、支部代議員の最上位得票者からなる支部代表理事の選出において、中部支部から同数上位者が出た扱いについて、現在の選挙規則には取り決めがないため、理事会に対応を求め、その結果、2名の代議員によるくじ引きで決定したことが報告された。

本議案についてはとくに質疑応答はなく、賛成多数で本議案は承認された。

\*新理事、監事名簿は巻末に添付

### 6号議案 2012年度事業計画

2012年度の事業計画について、藤本常務理事から説明があった。本議案の質疑応答は以下のとおりであった。

地層処分に関する研究は高レベルだけではなく低レベルについても積極的にやるべき、大学入試科目に地学を取り上げている大学が少ない、入試科目への拡大を図る努力をすること、幼稚園や小学校レベルの子供を扱う先生たちを、防災教育の立場から地学教育の対象とすべきではないか、学生層の学会離れに対する取り組みや、それら会員の制度を見直す必要性、などの意見が出た。

藤本常務理事より、地層処分についてはリーフレットを発行した、若手、学生層の学会離れについては、課題として認識しているとの答えがあった。

上記の質疑応答があった後、本議案は賛成多数で承認された。

### 7号議案 2012年度予算

会計担当の向山執行理事から、2012年度予算案について詳細な説明があった。とくに収入については、会費以外の収入をふやす努力が必要なことから、受託事業、地質調査研修事業への期待があること、年会事業の収支相殺、人件費、事務所費などはじめとする管理費については、昨年並みとし、引当金取り崩しをふくめて、収支相殺の予算案としたことが説明された。学会として研修事業を実施することを疑問視する意見も出されたが、本予算案は賛成多数で承認された。

### 8号議案 名誉会員の選出

名誉会員推薦委員会久田委員長より、名誉会員候補者として2名の会員が推薦され、委員会はこの2会員について検討した結果、名誉会員候補者として理事会に提案し、総会に推挙することになった説明があり、推薦文により候補者の業績等の紹介があった。

大八木規夫会員、蟹沢聰史会員を名誉会員とすることを賛成多数で承認した。

2012年5月19日

以上、決議を明確にするためこの議事録を作成し、議長、副議長および出席理事がこれに記名、押印する。

一般社団法人日本地質学会2012年度総会

総会議長 緒方 信一  
総会副議長 荒井 晃作  
代表理事 宮下 純夫  
理 事 藤本光一郎

2012年度監事（任期4年）

青野 道夫（就任）山本 正司（重任）

以上2名

2012年度理事（任期2年）

天野 一男（重任） 安藤 寿男（重任）  
石渡 明（重任） 伊藤 谷生（重任）  
伊藤 慎（新任） 井龍 康文（重任）  
市川八洲夫（新任） ウォリス サイモン（新任）  
永広 昌之（重任） 太田 泰弘（重任）  
大津 直（新任） 小山内康人（重任）  
狩野 彰宏（重任） 笠間 友博（新任）  
川端 清司（新任） 川辺 文久（新任）  
清川 昌一（新任） 小嶋 智（重任）  
齋藤 真（重任） 坂口 有人（重任）  
佐々木和彦（重任） 柴 正博（重任）  
芝川 明義（重任） 高木 秀雄（重任）  
高橋 正樹（重任） 竹内 誠（重任）  
竹下 徹（重任） 田村 嘉之（重任）  
内藤 一樹（重任） 中澤 努（新任）  
西 弘嗣（新任） 久田健一郎（重任）  
平田 大二（新任） 藤林 紀枝（重任）  
藤本光一郎（重任） 星 博幸（重任）  
保柳 康一（重任） 松田 達生（新任）  
松田 博貴（重任） 宮下 純夫（重任）  
宮田 隆夫（新任） 向山 栄（重任）  
村田 明広（新任） 山口 耕生（重任）  
矢島 道子（重任） 山路 敦（新任）  
山田 泰広（重任） 山本 高司（新任）  
脇田 浩二（重任） 渡部 芳夫（重任）  
以上50名

## 定款の改正について

### 1. 定款第33条第二項の改正

改正理由-----

法人化後の地質学会の会長・副会長選出の仕組みは、任意団体時代の「会長は会員選挙で選出する」という精神を、法人法による「理事長は理事会が選任する」という制約の中でどのように取り入れるかを考慮してつくられた。具体的には、会員による会長・副会長候補者への意向調査を実施し、それを参考にして理事会が会長以下の執行部を選任し、総会が決議するという方法をとっている。また、執行理事や理事についても、選挙広報に各自の抱負などを明記し会員に広く知らせるなど、選挙の透明性にも配慮してきた。法人化後2回の選挙を経て、この制度もある程度なじんできつつある。

一方で法務局からも指摘され、2011年度の総会でも議論したように、総会半ばで新理事会を開き、再開した総会で新旧代議員の交代、理事長以下役員を選出を決議する、また、それらを法的に適用のものとするための総会議事録の二重性などが問題となっていた。

役員選考過程を含む総会の運営について、理事会で議論を重ねた結果、現在行われている代議員・役員選挙が透明性に配慮し、全会員の意向を反映しているということを確認し、定款第33条第2項を変更することとした。これによって、法的にも矛盾のない、総会運営・理事会運営を実行することができるようになるものと考えている。

定款第5章 役員等  
(選任等)

第33条 理事および監事は、総会の決議により別途定める選挙規則に基づき、代議員の選挙により選任する。

2 理事会は、理事会規則により会長1名、副会長2名、常務理事1名、副常務理事1名および執行理事を選任し、代議員に報告する。

<変更前>

2 理事会は、理事会規則により会長1名、副会長2名、常務理事1名、副常務理事1名および執行理事を選任し、総会にこれを決議する。

### 2. 定款第54条に第2項(1)～(3)号を追加。

改正理由-----

一般社団法人の非営利型法人は税制の優遇が得られる。非営利型法人とは、以下の参考にある。1. 非営利が徹底された法人、2. 共益的活動を目的とする法人のどちらかの条件を全て満たすこととされている。地質学会の場合は、1の(2)「剰余金を分配しない」ことが定款に明記されていないために非営利型が徹底された法人とは判断されず、運営細則等の補助的資料も提示して、2の共益的活動を目的としている法人と判断されて非営利型法人の税制優遇を受けた。ただし、これは所轄の税務署の判断によるもので、認定書等の書類が交付されるようなことではない。非営利徹底の明確化と今後の公益法人化をにらみ、財産の管理運用について述べている定款第54条に、公益法人化に必要な他の禁止事項とともに、1の(2)に相当する文言を加えることとした。

定款第7章 財産および会計  
(財産の管理・運用)

第54条 この学会の財産の管理・運用は会長が行うものとし、その方法は理事会の決議により別に定める財産管理運用規則によるものとする。

2 以下の各号を財産の管理・運用上の禁止事項として定める。

- (1) 剰余金を分配すること。
- (2) 会員、役員もしくは使用人、基金の拠出者ならびにこれらの親族に対し、特別の利益を与えること。
- (3) 株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人もしくは団体の利益を図る活動を行うものとして政令で定める者に対し、寄附その他の特別の利益を与える行為を行うこと。ただし、公益法人に対し、当該公益法人が行う公益目的事業のために寄附その他の特別の利益を与える行為を行う場合は、この限りでない。

<参考>

1. 非営利が徹底された法人の条件

- (1) 主たる事業として収益事業を行わないこと
- (2) 剰余金を分配しない旨の定めが定款にあること
- (3) 解散時の残余財産を国もしくは地方公共団体又は公益社団法人等に帰属する定めを定款に置くこと
- (4) 理事に、三親等以内の親族が3分の1を超えて含まれてはいけないという理事の親族制限に違反しないこと
- (5) 過去に定款違反がないこと

2. 共益的活動を目的とする法人の条件

- (1) 会員に共通する利益を図る活動を行うことを主たる目的としていること
- (2) 主たる事業として収益事業を行わないこと
- (3) 定款等に会員が負担すべき金銭の額(会費)の定めがあること
- (4) 定款に特定の個人や団体に、剰余金の分配を受ける権利を与える旨の定めがないこと
- (5) 定款に解散時の残余財産を特定の個人や団体に帰属する定めがないこと
- (6) 解散時の残余財産を国もしくは地方公共団体又は公益社団法人等に帰属する定めを定款に置くこと
- (7) 理事に、三親等以内の親族が3分の1を超えて含まれてはいけないという理事の親族制限に違反しないこと
- (8) 特定の個人又は団体に特別の利益を与えた事がないこと

参考報告資料：  
その他関係規則等の改正

(1) 理事会規則の改正

1. 理事会規則第3条第1項ならびに第3項の変更

改正理由-----

定款第33条変更に伴い、理事会規則3条1項に意向投票尊重の文言を加え、3項を「総会報告」から「代議員に報告」に変更した。

理事会規則第2章 役員を選任

(会長、副会長、執行理事の選任)

第3条 理事会は、役員改選後の第1回理事会において、会長および副会長を選任する。なお、選任にあたっては、会員の意向投票を尊重する。

2 理事会は、理事の互選により、執行理事を選任し、執行理事の中から常務理事ならびに副常務理事をそれぞれ1名選任する。

3 理事会は、前項により選任された会長、副会長、常務理事・副常務理事ならびにその他の執行理事を、定款第33条に基づき代議員に報告する。

4 執行理事に欠員が生じた場合には、理事会の互選により補充する。補充執行理事の任期は前任者残任期間とする。

<変更前>

第3条 理事会は、役員改選後の第1回理事会において、会長および副会長候補者を選任する。

2 理事会は、理事の互選により、執行理事を選任し、執行理事の中から常務理事ならびに副常務理事をそれぞれ1名選任する。

3 理事会は、前項により選任された会長、副会長、常務理事・副常務理事ならびにその他の執行理事を、定款第33条に基づき総会に報告する。

4 執行理事に欠員が生じた場合には、理事会の互選により補充する。補充執行理事の任期は前任者残任期間とする。

(2) 運営規則の改正

1. 地質見学旅行の名称変更に伴い、運営規則12条、13条ならびに地質学雑誌編集出版規則の改正

改正理由-----

見学旅行は、その「旅行」という名称から、物見遊山の旅行をイメージされ、誤解により出張命令を受けにくい、研究費での参加が難しいなどの事例もある。そのため、行事委員会、理事会で検討し、「地質見学旅行」の名称を地学や地理学で日常的に使用される「巡検」に変更することとした。

1) 運営規則第12条および13条中の「地質見学旅行」の文言を「巡検」とする。

第5章 学会誌その他の刊行物

第12条 学会は以下の刊行物を出版する。

- (1) 地質学雑誌
  - (2) 地質学会News
  - (3) 巡検案内書 (CD-ROM版および印刷版)
- (以下略)

第13条 本学会の刊行物の発行にあたっては、理事会規則で定められる以下の体制で行う。

- (1) 地質学雑誌：地質学雑誌編集出版規

則に従って、地質学雑誌編集委員会が編集する。

- (2) 地質学会News：ニュース誌編集規則に従って、広報委員会が編集する。

- (3) 巡検案内書：地質学雑誌編集出版規則に従って、地質学雑誌編集委員会が編集する。

(以下略)

2) 地質学雑誌編集出版規則中の「地質見学旅行」の文言を「巡検」とする。

A. 原稿の提出と受付および保管の原稿の届け先

(略)

2) 郵送

必要事項を記入した所定の投稿原稿整理カードと必要な署名をした保証書を添えて投稿原稿のコピー(図・表を含む)3部を提出する。

(以下略)

〒101-0032

東京都千代田区岩本町2-8-15 井桁ビル内  
日本地質学会地質学雑誌編集委員会

巡検案内書については巡検案内書編集委員会宛とする。

(略)

B. 地質学雑誌の内容

(略)

3. その他：上にあげたもののほかに、地質学雑誌補遺(巡検案内書)および編集委員会が適当と認めた事項。

(略)

I. 印刷原稿

(略)

5. 巡検案内書の刷り上がり制限ページに関しては別途定める。

(略)

2. ポスター発表の表彰に関する運営規則16条の改正

改正理由-----

優秀ポスター賞の選考、決定、表彰について、現状に合わせて部分的に規則を変更する。文言の削除

第7章 表彰

第16条 本学会は地質学に関する優秀な研究業績を修めた者、並びに地質学の発展・普及による社会貢献の著しい者を顕彰するとともに

- 2 (1)～(10)略

3 前項の(1)～(7)および(9)、(10)

の表彰は、別途定める規則に従い、各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行い理事会が候補者を決定し、総会の承認を経て行う。前項の(8)の表彰は別途定める規則に従い、各賞選考委員会が候補者を選考・決定し、会長の承認を経て行う。

3. 関係して各賞選考規則第8項の改正

改正理由-----

小藤文次郎賞の受賞対象について、運営規則では会員、各賞選考規則では論文というよ

うに齟齬があったため賞の内容に鑑み、対象は会員とし、各賞選考規則を変更することとした。

8. 日本地質学会小藤文次郎賞の受賞対象は次のとおりとする。

1) 募集開始年9月までの過去2年間に**会員が発表した**、重要な発見または独創的な発想を含む論文を**発表した会員**。

## 2011年度事業経過報告

### 1. 報告事項

#### 1) 会員の動静

2012年4月末現在の会員は、賛助会員26社、名誉会員71名、正会員3887名(うち院生割引100名、学部割引4名)、会員総数3984名、2011年4月末と比べて64名の減少であり、その内訳は次のとおりである。

入会者144(賛助0社、正会員144名〔うち院生割引84名、学部割引15名〕)  
退会者120(賛助0社、正会員120名〔うち院生割引7名、学部割引0名〕)  
除籍者76(正会員76名)  
逝去者12(名誉会員2名、正会員10名)  
名誉会員: 斎藤林次(2006/3/27) 山岸猪久馬(2011/8/23)  
正会員: 西上原航(2009/2/11), 藤沢信一(2010/3/18), 山田純(2011/5/19), 降旗和夫(6/18), 長岡信治(7/10), 安間恵(7/15), 宮地直道(10/30), 佐藤世章(12/16), 打矢貞子(2012/2/20), 吉田義(3/2)

#### 2) 学会運営に関する諸集会及び委員会等の活動

##### <2011年度定時総会>

日時: 2011年5月21日 14:00~15:30  
会場: 総評会館 201会議室  
議決権のある当法人社員総数 125名(定員数: 63名)

総社員の議決権の数 125個 出席社員数(委任状および議決権行使書提出者を含む) 84名,  
議決権の総数 84個, 出席理事 31名, 出席監事 2名

審議事項: 1) 2010年度理事会報告, 2) 2010年度事業・決算報告, 3) 2011年度事業計画, 4) 2011年度予算案, 5) 名誉会員の選出

いずれの議案も賛成多数で承認。

##### <理事会等の開催>

・理事会(4回) 議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載  
・執行理事会(11回) 議事内容、報告等については、随時HP、ニュース誌に掲載  
・その他委員会(メールによる会議を含め、随時開催)

### 3) 行事の開催

1. 日本地質学会第118年学術大会・日本鉱物科学会2011年年会合同学術大会(日本地質学会、茨城大学との共催)

会期: 2011年9月9日~11日

会場: 茨城大学

参加者: 1131名(会員1017名, 非会員114名)

・一般発表: 780件: 口頭466件(うち地質学会308件), ポスター314件(うち地質学会207件)

・シンポジウム: 3件(26講演)

・優秀ポスター賞の授与: 13件(ポスター発表のみ)

・見学旅行: 実施10コース

・ランチョン: 専門部会を中心に11件

・夜間小集会: 11件

・就職支援プログラム: 2011年9月10日  
参加企業・団体: 5社・1団体

<日本地質学会各賞の授与式・日本地質学会との合同受賞記念講演会>

日時: 9月9日(金)

会場: 茨城大学講堂

・来賓挨拶 池田幸雄氏(茨城大学学長)

・日本地質学会小澤儀明賞受賞スピーチ 黒田潤一郎会員(海洋研究開発機構)

「白い時代の黒い石~白亜紀黒色頁岩の魅力と、白黒つかない問題~」

・日本地質学会榎山雅則賞受賞スピーチ 河野義生会員(HPCAT)

「弾性波速度を観察して」

・日本地質学会国際賞受賞記念講演 Dr. J. Casey Moore(米国カリフォルニア大学サンタクルズ校名誉教授)

「The Shimanto Complex and Ocean Drilling: Linking Across the Pacific」

・日本地質学会賞受賞記念講演 岩森光会員(東京工業大学)

「地球内部の地質学」

##### <年會関連行事>

・地質情報展2011みとー未来に活かそう大地の鳴動ー 2011年9月9日~11日

参加者: 926名

・市民講演会「東日本大震災と地震・津波・原発」2010年9月11日, 参加者: 170名, 講師: 都司嘉宜, 澤井祐紀, 石橋克彦

・特別講演会「日本のジオパークー列島の大地に学ぶー」

講師: 尾池和夫

・東日本大震災関連ポスター展示: 2011年9月10日~11日, 展示ポスター23編, 38枚。

・茨城大学特別企画ポスター展示: 茨城大学東日本大震災調査団のポスター展示10件。

・市民向けポスター展示: ポスター展示4件。

・地学教育委員会

小さなEarth Scientistのつどい~第9回小・中・高校生徒地学研究発表会:

2011年9月11日, 参加校9校, 11件, うち3件に優秀賞を授与。4件の発表に対し奨励賞を授与。

第10回理科教員対象見学旅行: 2011年9

月10日, 「J班: 地層を見る・はぎ取る・作る」

案内者: 伊藤孝, 植木岳雪, 中野英之, 小尾 靖, 牧野泰彦

2. 地質の日 本部イベント(神奈川県立生命の星・地球博物館との共催)

・第2回惑星地球フォトコンテスト, 表彰式  
・講演会「微生物はいかにして地球環境を変えてきたか?~石から探る地球環境の進化史」(講師: 山口耕生会員), 5月14日, 神奈川県立生命の星・地球博物館

### 4) 出版物の刊行

<地質学雑誌>

・117巻4号(2011年4月)~118巻3号(2012年3月)を刊行した。総ページ数は699ページ。

・地質学雑誌補遺: 水戸大会見学旅行案内書 冊子版およびCD-ROM版

<日本地質学会ニュース>

・14巻4号(2011年4月)~15巻3号(2012年3月)を発行した。総ページ数は392ページ。

<Island Arc>

・Island Arc 編集委員会の編集により, Wiley-Blackwell社よりVol.20, Issue 2~ Issue 4, Vol.21, Issue 1を刊行した。総ページ数は472ページ。

<リーフレット>

・たんけんシリーズ3「城ヶ島たんけんマップ」2012年3月増刷

### 5) 関連外部委員会への協力

下記の関連外部委員会等に対して本学会から選出された委員を通じて、これまでに引き続きそれぞれの活動、関連学会の発展と連携に協力した。

日本地球惑星科学連合: 評議員(宮下純夫), 連絡委員(向山栄), プログラム委員会委員(佐々木和彦), 環境・災害対応委員会-災害の委員(横山俊治), 環境・災害対応委員会-環境の委員(小荒井衛), 学術出版委員会委員(井龍康文), 教育問題検討委員会(矢島道子, 芝川明義, 中井睦美, 渡邊正人), 国際委員会(副委員長 公文富士夫), 地質科学関連学協会連合(天野一男), 自然史学会連合(斎木健一), 地理関連学会連合(藤本光一郎), 土質・地質技術者生涯学習協議会(CPD, 吉田孝紀), 日本技術者教育認定機構(JABEE, 天野一男), 地質の日事業推進委員会(委員, 藤林紀枝), 原子力総合シンポジウム(運営委員, 高橋正樹), アイソトープ・放射線研究発表会運営委員会(運営委員, 山口耕生), 富士学会: 富士山科学看板設置調整委員会(専門委員, 高橋正樹), 日本ジオパーク委員会(委員 高木秀雄), 国際地学オリンピック日本大会組織委員会(委員, 宮下純夫), 産総研地質調査総合センターJIS委員会(学会委員, 斎藤靖二), 第5回ジオパーク国際ユネスコ会議組織委員会

(顧問 宮下純夫), (NPO) 地学オリンピック日本委員会広報小委員会 (坂口有人), 大学評価・学位授与機構の専門委員など。

6) その他報告事項 (主なもの, そのほかは News誌, HPに掲載の執行理事会議事録, 理事会議事録参照)

<特に他学協会との共催・後援, 協賛行事, 開催年月日に関りなくこの期間に依頼のあったもの>

- ・筑波大学学校教育局 朝永振一郎記念第6回「科学の芽」賞の後援。
- ・土壌環境センター・フジサンケイビジネスアイほか主催「2011地球環境保護 土壌・地下水浄化技術展」(2011年8/31-9/2日)の協賛。
- ・「地質の日フィールドワーク〜紀の松島クルージングセミナー」:環境省近畿地方環境事務所(2011年5月14日)の後援。
- ・大阪市立自然史博物館第42回特別展「来て!見て!感激!大化石展」(2011年7/2-8/28日)の後援。
- ・日本粘土学会「第55回日本粘土科学討論会」(2011年9/14-16日)の後援。
- ・「地質情報展2011みと」:産総研との共催。
- ・青少年のための科学の祭典2011:日本科学技術振興財団(2011年5/14-2012/3/31)の後援。
- ・日本地球化学会2011年度年会(2011年9/14-16日)の共催。
- ・朝日新聞社主催「第九回高校生“科学技術チャレンジ”ジャパン・サイエンス&エンジニアリング・チャレンジ〜JSEC2011〜」の後援。
- ・新潟大学理学部から2件の企画展示(会期:2011年7/9-8/31)への後援。  
「糸魚川ジオパークの化石展」新潟大学 駅南キャンパス ときめいと  
「佐渡の大地と海」新潟大学旭町学術資料展示館
- ・地質学雑誌の貸出:TBSテレビ関係の道具会社(有)オルフ(代表若山博氏)より,地質学雑誌等の借用の打診があり,確認の上貸出を了承。
- ・東レ科学振興会,第61回科学講演会「科学技術と知の文化」(2011年9/16日,朝日ホール)の後援。
- ・ゼオライト学会,「ZMPC2012 International Symposium on Zeolites and Microporous Crystals」(2012年7/28日-8/1日,広島)の協賛。
- ・21世紀の地学教育を考えるフォーラム実行委員会「第12回子供のためのジオ・カーニバル」(2011年11/5-6日,大阪市立科学館)の後援。
- ・野尻湖発掘50周年記念式典およびシンポジウム(2011年10/1-2日,信濃町総合会館)の後援。
- ・第2回日本ジオパーク洞爺湖有珠山大会(2011年9/29日-10/1日,洞爺湖文化センター)の後援。

- ・いわて三陸ジオパーク震災復興シンポジウム(11/25,盛岡市アイーナホール)の後援。
- ・公益社団法人計測自動制御学会,「第37回リモートセンシングシンポジウム」(2011年10/31日)の協賛。
- ・むかわ町徳別博物館,「モササウルス国際シンポジウム」(2011年12/3日)の後援。
- ・産総研地質調査総合センター,「第1回アジア太平洋大規模地震・火山噴火リスク対策ワークショップ」(2012年2/22-25日,つくば)の後援
- ・地質汚染-医療地質-社会地質学会主催「第21回環境地質学シンポジウム」(2012年1/24-25日,早稲田大学国際会議場)に対し,環境地質部会が共催。
- ・香川大学「讃岐ジオパークに向けたガイド資料の作成と地域連携の推進」研究グループ主催「讃岐ジオパークをめざすシンポジウム」(2012年3/3-4日,香川大学)に対し,四国支部が後援。
- ・TECHNO-OCEAN2012(2012年11/18-20日,神戸国際会議場)への協賛。
- ・東海大学自然史博物館主催「第2回フォトコンテスト入賞作品の展示」(4月28日~5月13日)へ共催。
- ・光記念館主催 企画展「飛騨地方の活断層と地震」(2012年2/22-12/11)の後援。

7) 支部の活動

<北海道支部>

1. 2011年度「地質の日」記念展示(2011年3月8日~5月29日)  
北海道大学総合博物館企画展示「豊平川と私たち—その生いたちと自然—」  
北海道大学総合博物館主催,北海道立総合研究機構地質研究所,札幌市博物館活動センター,北海道地質調査業協会,日本地質学会北海道支部共催。  
地質見学ツアー「札幌軟石ウォッチング」(5月21日)札幌建築鑑賞会,札幌軟石文化を語る会,北海道立総合研究機構地質研究所との共催,参加者33名。
2. 野外巡検および講演会「白滝ジオパーク地質見学会・講演会」(2011年6月25日~6月26日)。白滝ジオパーク巡検(6月25日~26日,案内:和田恵治,加藤孝幸,岡孝雄,米島真由子),参加者28名。講演会「ジオパークとは何だ!?—遠軽の大地の遺産—」(6月25日)於遠軽町(和田恵治,廣瀬亘,田近淳),参加者70名。
3. 北海道支部総会・個人講演会・地質災害討論会(2012年2月11日)於北海道大学  
・総会(9:30-10:20)参加者23名  
・個人講演会(10:30-12:45)発表8件,参加者43名  
・地質災害討論会2012(14:00-17:00)出席者44名,東日本大震災の現地報告,防災教育の現状などについて5件の話題提供をもとに質疑応答,討論を行った。
4. 北海道地質百選検討

公開済みジオサイト数は324カ所(2012年2月1日現在)に達した。豊平川,札幌西方の山々,積丹,礼文島,支笏カルデラの5ヶ所のオンライン北海道ジオパーク(OHG)を公開中。

<東北支部>

1. 震災により,3/13日に予定していた支部総会等が中止,12月17日~18日の総会まで実質活動停止。
2. 2011年12月17日~18日に2011年度総会,個人後援会,2013年仙台大会にむけての話し合い等をおこない,支部幹事等は山形大学に移行した。

<関東支部>

1. 地質技術伝承講演会(4月24日 会場:大田区産業プラザ)  
「トンネル事前調査の課題と物理探査」(講師 三木 茂 基礎地盤コンサルタンツ(株))  
共催:関東地質調査業協会 参加者:61名
2. 秩父ジオパーク活動への協力「秩父礼所巡りジオウォーキング」  
第3回(10月30日)参加者50名,第4回(12月11日)参加者50名  
主催:秩父まるごとジオパーク推進協議会,後援:日本地質学会関東支部
3. 地質見学会  
・城ヶ島見学会(11月19日)参加者:50名  
案内者:蟹江康光,山本由弦・柴田健一郎,三浦半島活断層調査会  
・霞ヶ浦見学会(11月26日)参加者:32名  
案内者:岡崎浩子,中里裕臣,霞ヶ浦導水路事務所,共催:日本応用地質学会
4. 水戸大会準備・担当  
・広報(支部会員メール配信・NEWS誌・ジオフラッシュ)  
・見学会コース準備(10コース),案内書編集委員  
・シンポジウム「関東盆地の地質・地殻構造とその形成史」共催:東大地震研  
・トピックスセッション「関東平野の更新統層序とテクトニクス」共催:日本第四紀学会  
・東日本大震災関連ポスター(23編,38枚)  
・夜間小集会 大震災関連
5. 震災関連対応  
・臨時特別委員会設置の要望  
・作業部会開催(4月29日)  
・東日本大震災作業部会報告(5月21日)NEWS誌,HP  
・いわき活断層調査(7月9~10日)
6. 支部活動  
・支部総会(4月8日 会場:北とびあ)  
支部幹事改選,活動報告,会計報告,活動計画,支部規約改正  
・支部功労賞授与(3個人・団体)  
かわさき宙(そら)と緑の科学館(川崎市青少年科学館),茨城大学地質情報プロジェクト,府川宗雄氏  
・幹事会 10回開催(1回/月程度)  
・長期方針会議(3月20日 会場:箱根)

#### <中部支部>

##### 1. 地質の日イベント

- ・サイエンスファスティバル, 新潟大学, 参加者335名
- 2. 中部支部総会 (6月11日, 名古屋大学東山キャンパス, 参加者27名, 委任状64名)
- 3. シンポジウム「濃尾平野の形成とテクトニクス」(6月11日, 名古屋大学東山キャンパス, 参加者約30名)
- 4. 地質見学会「天正地震によるせき止め湖堆積物と足助断層シユードタクライト」(6月12日, 参加者17名)

#### <近畿支部>

##### 1. 2011年度支部体制

支部長:宮田隆夫(神戸大学), 代表幹事:奥平敬元(大阪市大), 行事:小林文夫(兵庫県立人と自然の博物館), 会計:大串健一(神戸大学), 庶務:竹村静夫(兵庫教育大学), 幹事:里口保文(滋賀県立博物館), 和田穰隆(奈良教育大学), 田中里志(京都教育大学), 三田村宗樹(大阪市大), 此松昌彦(和歌山大学)

##### 2. 行事報告

###### ・地質の日イベント

第28回地球科学講演会「はやぶさ探査と小惑星の起源」(2011年5月15日(日)), 場所:大阪市立自然史博物館講堂, 講師:中村昭子氏〔神戸大学大学院理学研究科准教授〕主催:地学団体研究会大阪支部・日本地質学会近畿支部・大阪市立自然史博物館

・山陰海岸ジオパークイベント:「山陰海岸ジオパーク研究会」(2011年5月28日(土)), 場所:鳥取市とりぎん文化会館第2会議室, 口頭発表6件, ポスター発表11件, 参加者40名)主催:日本地質学会近畿支部(協力:山陰海岸ジオパーク推進協議会)

・総会・シンポジウム:「紀伊半島の地質特性と台風12号による斜面災害」(2011年12月4日(日)), 場所:大阪府立大学中百舌鳥キャンパス)

#### <四国支部>

1. 2011年度支部体制 支部長:白井 朗, 幹事:榎原正幸(事務局長), 村田明広, 西山賢一, 寺林 優, 近藤康生, 奈良正和, 佐野 栄

##### 2. 行事報告

・第11回日本地質学会四国支部総会・講演会(2011年12月23日(金)), 場所:徳島大学総合科学部3号館1階スタジオ, 講演件数:口頭発表10件, ポスター発表7件

#### <西日本支部>

1. 2011年度の支部体制 支部長:宮本隆実, 幹事:小山内康人・早坂康隆・山本啓司・松田博貴・酒井哲弥・永尾隆志・石原与四郎・太田泰弘・木戸道男・福田泰英・宮本知治(庶務), 監事:中野伸彦

##### 2. 行事報告

・地質学会西日本支部・九州考古学会合同大

会(兼:第161回西日本支部例会)

「考古学と地球科学の融合研究の最前線」日時:平成23年7月9日(土)・10日(日), 場所:九州大学西新プラザ(10日(日)は巡検),

一般講演:基調発表5件(うち, 西日本支部会員3件), ポスター発表9件(うち, 西日本支部会員3件)

・第162回西日本支部例会・2011年度総会

日時:平成24年2月11日(土), 場所:鹿児島大学理学部

講演件数:口頭講演24件(うち, 特別講演1件), ポスター発表15件

・後援行事等『「地質の日」くまもと』企画, 日時:平成23年5月4日(水・祝)・7日(土)

#### 2. 執行理事会および理事会議決・承認事項

##### 1) 理事会議長・副議長の選出.

議長:竹内 誠, 副議長:榎原正幸

2) 各賞選考規則の変更と各賞選考委員の任期:各賞選考委員の任期について各賞選考委員会規則を変更し, 委員の任期を2年とする. 具体的には規則2項2)の改正で, 以下のとおりとなる.

<各賞選考委員会規則>(抜粋)

2. 各賞選考委員会(以下選考委員会という)は, 理事会が推薦する10名の委員と前・現地質学雑誌編集委員長および前・現副委員長, Island Arc前・現編集委員長で構成する.

1) 理事会推薦委員の10名は, 専門を考慮して理事の互選により選出し, 委員長はこの委員間の互選とする.

2) 理事会推薦委員の任期は2年とする。

これに伴い, 前年度第1回の理事会において選出された選考委員全員の任期の継続も承認.

理事の互選(10名):天野一男, 安藤寿男, 上砂正一, 永広昌之, 狩野彰宏, 榎原正幸(委員長), 竹下 徹, 松田博貴, 村田明広, 山田泰広,

役職指定委員(8名):久田健一郎, 岩森光, 小嶋 智, 山路 敦, 石渡 明, Wallis Simon, 井龍康文, 前川寛和.

3) 選挙管理委員会委員の選出:2012年度代議員および役員選挙管理委員の承認. 委員長は互選.

委員氏名:氏家恒太郎, 兼子尚知(委員長), 高橋 聡, 守屋和佳, 和仁良二

4) 受託業務に係る受託研究取扱規則案, 受託研究国内旅費細則・受託研究謝金細則が提案され承認.

5) 地質学雑誌編集出版規則の制定:①最近の投稿・編集・出版事情に即した変更, ②短報の廃止による変更, ③文献例を規則からはずし細則とする, ④特集号の申込書から“前文”を削除, ⑤数式の書式に関する細則を新たに追加.“編集規則”を廃止し, “地質学雑誌編集出版規則”を設けること

を承認.

6) 東日本大震災対応作業部会の設置と対応について:執行理事会のもとに「東日本大震災対応作業部会」が設置された. 5月21日付で作業部会告書が提出された.

作業部会委員:池田安隆・伊藤谷生・佐藤比呂志・重松紀生・宍倉正展・中山俊雄・平田 直(非会員)・藤井敏嗣・藤本光一郎(幹事)・山本高司(幹事)

7) 特集号の論文の早期公開の実施について, 「早期」公開はHP上の会員ページで行う. 要旨はフリーで公開する.

8) 小藤文次郎賞の短報枠:小藤賞の対象となる短報が残っているうちは, 小藤文次郎賞とは別に短報を対象とする小藤賞が並立して存在することを確認.

9) 部会・支部の連絡ツールとしてSNS(Social Networking Service)を導入することを了承.

10) 2013年以降の年会開催地について.

2013東北・北海道ブロック:東北大学(2013年9月13日~15日)

2014西日本支部:鹿児島大学

2015中部支部:信州大学

11) 地質災害委員会:斎藤真副常務理事を委員長に選出し, 以下のとおり委員会を組織した.

・支部委員:川村信人(北), 越谷 信(東北), 本田尚正(東), 野沢竜二郎(中), 三田村宗樹(近), 榎原正幸(四), 奥村晃史(西)

・専門部会委員:安藤 伸(応用), 黒田登美雄(四紀), 木村克己(地域地質), 三浦大助(火山), 上砂正一(環境地質)

・支部長:竹下 徹(北), 竹谷陽二郎(東北), 伊藤谷生(東), 原山 智(中), 宮田隆夫(近), 臼井 朗(四), 宮本隆実(西)

12) 山田科学振興財団助成金への推薦:推薦希望者2名, 地質学会として推薦を了承.

13) 行動規範の策定について:理事会の策定要請を受け, 「一般社団法人日本地質学会行動規範」(案)が提案され, 承認.

14) 総会の運営およびそれにとまう役員の選出過程について:法務局からの指摘を受け, 総会の運営および役員の選出過程について, 定款に抵触する箇所は今後修正を検討することとし, 総会運営の変更案を承認.

・5月定時総会は現在(改選前)の代議員, 役員による総会とし, 代議員および理事, 監事の選挙結果の承認, 次期予算や事業計画などを議決する.

・いったん休憩を入れてその間に新年度理事による第1回理事会を開催し, 代表理事, 執行理事等を決定する.

・休憩後の総会で, 先に行われた第1回理事会決定事項を承認する.

15) 寄付取扱規則の策定について:寄付取扱規則策定の提案と規則案を承認. 支部における寄付の取り扱いも本規則によることを確認.

- 16) 委員会の設置申請について：理事会規則第16条に基づき、環境地質部会から委員会設置の申請があり、検討の結果再提出を要請し、委員会の内容を自然放射線量に関する調査・研究とすること、委員会の名称は「放射線測定・調査研究委員会」、設置期間：2011年10月1日～2013年9月30日の2年間として承認した。
- 17) 野外調査安全指針の策定について承認。本指針は“年会における見学旅行(支部も)”も対象とすることを付記。
- 18) 環境地質部会から東日本大震災に関連して、①学会で行われた放射性廃棄物に関する過去の公開討論会の内容の再検討、②津波の想定や活断層の予測等に関する他学会との公開討論会の開催の必要性、③プレートテクトニクスと日本列島の形成に関する公開討論会の必要性に関して、意見と提案がなされたが、理事会内で議論した結果、これら3つの提案を否決。
- 19) 国際賞受賞者のMoore教授から震災関係の研究に対し、国際賞の賞金10万円を寄付したいとの申し入れがあり、寄付取扱規則に基づいて、ご厚志を受けることとした。
- 20) 東レ科学技術研究助成候補者推薦の応募について：推薦希望者1名、地質学会として推薦を了承。
- 21) 笹川科学技術研究助成/実践研究部門への推薦：推薦希望者1名、地質学会として推薦を了承。
- 22) 震災復興事業として事業プランを募集した結果8件の応募があった。そのうち、下記の6件を採択した。
- 榎原正幸・佐野栄：放射性セシウムに汚染された水田土壌のカヤツリグサ科マツバイによるファイトレメディエーション
- 高橋正則：微生物による放射性物質の除染
- 永広昌之・佐々木理：歌津魚竜館大型標本レスキュー事業
- 大石雅之：陸前高田市立博物館標本救済事業
- 卜部厚志：関東平野内陸部の住宅地での盛土材質の相違による液状化要因の解明
- 上砂正一：福島第一原発周辺の放射線量の測定方法と地質学的除染方法の検討
- 23) 地質技術者教育委員会の設立について：技術者継続教育委員会ならびにJABEE委員会を廃止し、「地質技術者教育委員会」の新設を承認。
- 24) 名誉会員推薦委員会委員の選出：委員長；久田健一郎副会長
- ・階層別委員：大学；佐野弘好（九州大学）、官公庁；栗本史雄（産総研）、小中高；田中義洋（学芸大学附属高、会社）；須藤 宏（応用地質株）
- ・職責委員：支部長；竹下 徹、竹谷陽二郎、伊藤谷生、原山 智、宮田隆夫、

- 白井 朗、宮本隆実
- ・理事会推薦委員：永広昌之理事
- 25) 2012年度の総会は、5月19日（土）に開催することを承認。
- 26) 理事会推薦監事候補者について：社外監事候補者として、現監事の山本正司氏を決定。
- 27) 地質調査研修事業について：地学情報サービス（株）の解散に伴い、同社が実施してきた、産総研の認定研修制度を利用した地質調査研修事業の継承依頼について検討し、引き継ぐことを承認。2012年度はモデルケースとして執行理事会・社会貢献部会が関東支部の協力のもとに実質的な運営を行う。
- 28) 広報誌の編集その他のために会員等からサイエンライターを募集、次の通り決めた。
- 会員：遠藤大介・川端訓代・北村有迅・笹沢教一・正木裕香・土屋 健
- 非会員：岡山悠子（日本科学未来館）
- 29) 2012年度の選挙のための立会人として、次の2名を選出した。その後、選挙管理委員会の要請により、選挙立会人の代理人を追加選出した。
- 巖谷敏光会員（産総研）、山本由茲会員（JAMSTEC）、立会人代理：田中伸明会員（東京学芸大学・院生）
- 30) 学会HPに「地質学者に答えてもらおう」コーナーを開設。常務陣をキーパーソンとして、運用開始。
- 31) SNSによる友の会を新学期に合わせて本格開始する方針を承認。
- 32) 北中康文ほか著による「列島自然めぐり日本の地形・地質－見てみたい台地の風景116」（2012年3月中旬出版、文一総合出版）について、学会推薦名義使用の申請を承認。
- 33) 各賞選考検討委員会を設置し、地質学会賞・小澤賞の選考を諮問した。
- ・指定委員：宮下純夫・石渡明・鳥海光弘・岩森光・小嶋智・久田健一郎・井龍康文・前川寛和・Simon Wallis（委員長）、執行理事会の推薦者：松本良会員、大友幸子会員。
- ・Island Arc賞については、Island Arc編集委員会に選考を諮問した。
- 34) 山田科学振興財団研究助成への推薦希望者1名、承認。
- 35) 支部の代議員選挙で同数トップ当選者が出たため、支部の代表理事を選出するにあたり、どちらを選出するかその方法について、選挙管理委員会からの要請があった。理事会のメール審議で検討し、当該当選者の郵送によるくじ引きとすることを決めた。選挙管理委員会に対し、郵送によるくじ引きを実施するよう要請。
- 36) 広報誌ジオルジュ創刊号の発行を決めた。部数：創刊号は宣伝用も含め、1万部、5月10日発行、2回発行/年。
- 37) SNS友の会の名称は、「ネット地学部“ちーとも”」とする（メルマガ：4月創刊。6回配信/年）。

- 38) 広報関係規則類を策定：ジオルジュ編集委員会細則、ネット地学部“ちーとも”運営細則・ネット地学部“ちーとも”利用規則の3規則を承認。
- 39) 2012年地質の日行事について
- ・応用地質学会との合同行事「街中ジオ散歩 in Tokyo」（5月13日）を実施。
- ・第3回フォトコンテストを実施、表彰式は5月19日の総会直前に行う。入賞作品の展示は（4月21日～6月3日）千葉県立中央博物館で、地質学会主催、千葉県立中央博物館共催により行うこととした。
- 40) 年会見学旅行の実施方法：従来の実施方法が旅行業法に抵触する可能性とのことで、弁護士や旅行業者の意見も聞きながら検討を進め、既に準備が進んでいる大阪大会は従来通りの方法で実施することを確認。
- 41) 大阪大会の参加登録費等：会員・非会員全ての参加登録費について水戸大会の設定を踏襲する。
- 42) 韓国地質学会の新会長 Yu, Kang Min 教授（兪剛民、延世大校）を大阪大会に招待する。
- 43) 国立国会図書館より：インターネット資料の収集等に係わる許諾について承諾。
- 44) 第3回フォトコン審査結果について：最優秀賞1件、優秀賞3件、入賞12件を選考した。
- 45) 「年会の回り持ち順変更に関する申し合わせ」の修正案を了承。回り持ち変更の要件ならびに決定手続きは以下のとおり。
- 変更要件：「予定されている大会開催を延期したい場合」・「予定されている大会開催が困難・不可能な状況になった場合」・「回り持ち順に割って入るように大会開催を希望する場合」
- 決定手続き：支部長と開催校代表者が行事委員会に連絡すること、それを受けて行事委員会が各方面と調整し、順番変更の決定は理事会が行う。
- 46) 「見学旅行」の名称を「巡検」と変更することが提案され、承認した。
- 47) 定款の変更：非常利型法人の重要条件として、定款上に、剰余金の分配をしないことを明記することとし、**定款第54条**に2項1号～3号を追加することとした。理事会審議およびメール補足審議（審議期間：2012年4/26～5/7）を経て以下のように承認した。【3号議案】
- 第54条 この学会の財産の管理・運用は・・・財産管理運用規則によるものとする。**
- 2. 以下の各号を財産の管理・運用上の禁止事項として定める。**
- (1) 剰余金を分配すること。
- (2) 会員、役員もしくは使用人、基金の拠出者ならびにこれらの親族に対し、特別の利益を与えること。

(3) 株式会社その他の営利事業を営む者又は特定の個人もしくは団体の利益を図る活動を行うものとして政令で定める者に対し、寄附その他の特別の利益を与える行為を行うこと。ただし、公益法人に対し、当該公益法人が行う公益目的の事業のために寄附その他の特別の利益を与える行為を行う場合は、この限りでない。

48) 総会の運営およびそれにとまなう役員を選出過程について修正案を再提案(第4回理事会):これに関しては、第3回の理事会で定款の修正が承認されたが、さらに検討し、修正再提案された。定款第33条の理事、監事の選任については「総会決議」から、「総会への報告」に改正したが、修正提案の「代議員への報告」とすることを承認した。それにあわせ、運営規則のいくつかの条文の微修正(現組織等に合致したもの)についての提案があり、これを承認。総会では、選挙結果の承認(理事の選任)を行い、総会后、第1回目の理事会で代表理事以下を選任する。理事会終了後、速やかに代議員に報告を行う。

2 理事会は、理事会規則により会長1名、副会長2名、常務理事1名、副常務理事1名および執行理事を選任し、**総会に報告する。**

49) 規則類の変更

1) 各賞選考規則第8項1)の小藤文次郎賞の受賞対象について、「論文」となっているのを「論文を発表した会員」と修正する提案がされ承認した。

8. 日本地質学会小藤文次郎賞の受賞対象は次のとおりとする。

1) 応募開始年9月までの過去2年間に会員が発表した、重要な発見または独創的な発想を含む論文を**発表した会員。**

2) 運営規則第16条第3項の各賞の表彰に関して、優秀ポスター賞の表彰実態に合わせて、3項の文言の修正が提案され、了承した。

(表彰)第16条 本学会は地質学に関する優秀な研究業績を修めた者、ならびに・・・永年会員顕彰を授与する。

3 前項の(1)～(7)および(9)、(10)の表彰は、別途定める規則に従い、各賞選考委員会が受賞候補者の選考を行い理事会が候補者を決定し、総会の承認を経て行う。**前項の(8)の表彰は別途定める規則に従い、各賞選考委員会が候補者を選考・決定し、会長の承認を経て行う。**

3) “46)”を受けて、運営規則及び地質学雑誌編集出版規則の数カ所にある「見学旅行」をすべて「巡検」に変更する提案を了承した。

4) 理事会規則第3条第1項ならびに第3

項について、定款第33条第2項の変更に伴い以下のように変更することを承認。

第3条 理事会は、役員改選後の第1回理事会において、**会長および副会長を選任する。なお、選任にあたっては、会員の意向投票を尊重する。**

2 理事会は、理事の互選により、執行理事を選任し、執行理事の中から常務理事ならびに副常務理事をそれぞれ1名選任する。

3 理事会は、前項により選任された会長、副会長、常務理事・副常務理事ならびにその他の執行理事を、定款第33条に基づき**代議員**に報告する。

4 執行理事に欠員が生じた場合には、理事会の互選により補充する。補充執行理事の任期は前任者残任期間とする。

50) 2011年度事業報告を承認した。【1号議案】

51) 2011年度決算案を承認した。【2号議案】

52) 次の19名の会員を50年会員として顕彰することとした。

浅地良樹 荒木英夫 有坂正一 池田宜弘 大塚裕之 菅野重也 熊井久雄 酒井潤一 渋谷 紘 高橋 豊 徳岡隆夫 西村祐二郎 服部陸男 林 等 原田正史 福富幹男 松尾征二 的場保望 宮沢忠治

53) 2012年度事業計画基本方針および2012年度予算案を承認した。【6号議案, 7号議案】

54) 名誉会員推薦委員会から提案された下記の2名の会員を総会に推薦することとした。【8号議案】

大八木規夫会員、蟹沢聰史会員

55) 各賞選考委員会より提案された下記の各賞受賞者を承認した。(推薦文は1号議案資料2 参照)

・日本地質学会賞(1件)

木村 学(東京大学大学院理学系研究科) 対象研究テーマ: テクトニクス, 付加体地質学, 沈み込みプレート境界地震発生帯物質科学

・日本地質学会小澤儀明賞(1件)

山本伸次(東京大学大学院総合文化研究科)

対象研究テーマ: 造山運動論

・日本地質学会 Island Arc賞(1件)

授賞論文: Barber, A. J. and Crow, M. J., 2009. Structure of Sumatra and its implications for the tectonic assembly of Southeast Asia and the destruction of Paleotethys. Island Arc, 18, 3-20.

・日本地質学会論文賞(2件)

Yoshimoto, M., Fujii, T., Kaneko, T., Yasuda, A., Nakada, S. and Matsumoto, A., 2010. Evolution of Mount Fuji,

Japan: Inference from drilling into the subaerial oldest volcano, pre-Komitake. Island Arc, 19, 470-488.

Uchino, T. and Kawamura, M., 2010.

Tectonics of an Early Carboniferous forearc inferred from a high-P/T schist-bearing conglomerate in the Nedamo Terrane, Northeast Japan. Island Arc, 19, 177-191.

・日本地質学会小藤賞(1件)

佐藤峰南・尾上哲治, 2010.

中部日本、美濃帯の上部トリアス系チャートから発見したNiに富むスピネル粒子。地質学雑誌, 116, 575-578.

・日本地質学会小藤文次郎賞(1件)

坂口有人(海洋研究開発機構)

Sakaguchi, A., Chester, F., Curewitz, D., Fabbri, O., Goldsby, D., Kimura, G., Li, C.-F., Masaki, Y., Screenshot, E. J., Tsutsumi, A., Ujiie, K. and Yamaguchi, A., 2011. Seismic slip propagation to the updip end of plate boundary subduction interface faults: Vitrinite reflectance geothermometry on Integrated Ocean Drilling Program NanTro SEIZE cores. Geology published online, doi: 10.1130/G31642.1.

・日本地質学会研究奨励賞(3件)

増渕佳子(富山市科学博物館)

対象論文: 増渕佳子・石崎泰男, 2011, 噴出物の構成物組成と本質物質の全岩および鉱物組成から見た沼沢火山のBC3400カルデラ形成噴火(沼沢湖噴火)のマグマ供給系, 地質学雑誌, 117, 357-376.

針金由美子(産業技術総合研究所)

対象論文: Harigane, Y., Michibayashi, K. and Ohara Y., 2010. Amphibolitization within the lower crust in the termination area of the Godzilla Megamullion, an oceanic core complex in the Parece Vela Basin. Island Arc, 19, 718-730.

森宏(名古屋大学大学院環境学研究所)

対象論文: Mori, H. and Wallis, S. R., 2010. Large-scale folding in the Asemi-gawa region of the Sanbagawa Belt, southwest Japan. Island Arc, 19, 357-370.

・日本地質学会表彰(2件)

北九州市立自然史・歴史博物館(いのちのたび博物館) 表彰業績: 自然・環境保全活動および地質学の教育・普及への貢献

狩野謙一(静岡大学理学部)・村田明広(徳島大学大学院ソシオ・アーツ・アンド・サイエンス研究部)

表彰業績: 教科書発行と構造地質学普及への貢献

56) 5月19日開催予定の総会議案を承認。